

展示構成

プロローグ ここはとじていた

出品作家：中川陽介

① private passion：越境者の軌跡 — 瑛九と須田剋太

須田剋太、1906年、埼玉県吹上町（現・鴻巣市）に生まれる。瑛九（本名：杉田秀夫）、1911年、宮崎市に生まれる。剋太は戦前に関西へ、瑛九は戦後に浦和へ移住。活動の拠点が重なることはなくとも、互いに「前衛／保守」の二項対立やジャンルの枠組みを越え、個人の葛藤と向き合って制作を続けた。戦前から60年代まで、同時代を駆け抜けた、ふたりの軌跡をたどります。



[図版 1] 瑛九《花》1956年



[図版 2] 須田剋太《私の曼陀羅 a》1964年

② private collection：蒐集家の眼差 — 大熊家コレクション

芸術家との交流によって築き上げられた大熊家コレクション。その全貌を初めて一挙に公開するこのセクションでは、蒐集品を慈しんだコレクターのまなざしに思いを寄せ、日本画と親しく語り合う空間をお楽しみください。（大熊家コレクションの展示は1階展示室へ続きます。）

出品作家：横山大観、橋本関雪、奥村土牛、堂本印象など



[図版 3] 横山大観《朧夜》1924年頃

インターセクション private to private — あなたのこだま

室内、卓上、鏡、窓、庭、草花、虫、鳥、空、月、星、異界……

誰かへの／誰かからの贈り物、愛でるもの／慈しむもの、回転／移動、外への憧れと諦念……

プライベート・ワールド アナザー・ヴィジョン
私的な小宇宙から他者との遭遇へ。

出品作家：駒井哲郎、熊谷守一、草間彌生、立石大河亜（タイガー立石）、山本容子、野村仁など

③ private vision：美術家の作法 — アナザー・ヴィジョン・サイタマ

活躍中の埼玉ゆかりのアーティストに焦点をあてる展覧会「ニュー・ヴィジョン・サイタマ」。過去4度の開催で紹介した作家を中心に構成します。彼らが丹念に深めてきた独自の視点や手法、そして紡ぎ出された表現をひとつひとつ読み解いていきます。

出品作家：黒田克正、橋本真之、古川勝紀、塩崎由美子、佐藤時啓、志水児王など



[図版 4] 佐藤時啓《Photo-Respiration シリーズより"#368 Saitamakinbi"》1999年（寄託作品）



[図版 5] 塩崎由美子《シリーズ〈恢復〉より》2011年

エピローグ わたしをひらく場所

出品作家：中川陽介



[図版 6] 中川陽介《黒川紀章「中銀カプセルタワービル・カプセルモデル」》2014年（映像作品）